

LITTLE BIG

第 73 号 2022. 7. 8

発行：福島県立図書館 こどものへや

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218

<https://www.library.fcs.ed.jp/>



【Pieces - かけらたち -】 本の中の言葉

当館の職員が読んだ本の中から、素敵な言葉、心に残った言葉を集めました。
みなさんの心にも届いたら、ぜひ手にとって読んでみてください。

◆「何味が、優勝したんですか？」

「普通の味です」

「普通……」

「なににつけても、普通がいちばん、むずかしいのです」

『みつばちと少年』（村上しいこ／著 講談社 2021.4 p131）

◆「人気ってのは、怖いものなんだよね。人気には、いい気もあるけど、悪い気もある。人気が出るってことは、その両方を受けとめないといけないってこと」

『文豪中学生日記』（小手鞠るい／著 あすなろ書房 2021.10 p86）

◆「じゃあもし、オレが海斗のお父さんみたいに優秀なままだったら、親が死んで初めて、本当に歩きたい道は違ってたって、気付くことになったかもしれないってことか……」

『マイブラザー』（草野たき／著 ポプラ社 2021.11 p215）

◆永遠のさよならなんてない、

そのひとについて

知っていたことをすべて

消し去らないかぎり。

『タフィー』（サラ・クロッサン／作 三辺律子／訳 岩波書店 2021.10 p389）

◆「『なにが無理なの？』とか、『なんでやらないの？』とか、突っ込んで聞かないんだなあと思って。」「だって、どういう理由であれ、無理なんでしょ？じゃあ、仕方がないじゃん。』

『スウィートホーム わたしのうち』

（花里真希／著 片山若子／装画 講談社 2021.6 p102）

／難民／

いろいろな事情により、住んでいた国から避難している人がいます。日本も「国際人権規約」と、「国連難民条約」を批准していますが、現在、様々な問題や事件が起きています。

私たちに何ができるのか、もう一度考えてみませんか？

『となりの難民 日本が認めない99%の人たちのSOS』

（織田朝日／著 旬報社 2019.11）

『故郷の味は海をこえて「難民」として日本に生きる』

（安田菜津紀／著・写真 ポプラ社 2019.11）

『ようこそ、難民！ 100万人の難民がやってきたドイツで起こったこと』

（今泉みね子／著 合同出版 2018.2）

＼YAの本棚から／

『そのことばが降ってくる』

保健室の俳句会』

(高柳克弘／作 ポプラ社 2021.9 913/㊦)



保健室登校のソラ、クラスではみ出し者のハセオ、弓道部のエースのユミは、保健室から始まった「ヒマワリ句会」のメンバー。句会が思いがけず校長先生の目に留まり、全校での俳句大会が行われることになります。

「謎句」とは、俳句の五七五の言葉には出てこない隠された謎を解くゲームです。俳句を通して、ほとんど共通点のない3人が、普段他人には言えないよう悩みや、お互いの気持ちを伝えます。

『彼の名はウォルター』

(エミリー・ロッド／著 さくまゆみこ／訳

あすなろ書房 2022.1 933/㊦)



遠足でバスが故障し、転校生のコリンは、体の弱いタラ、松葉杖をつくグレース、パソコンオタクのルーカス、フィオーリ先生と田舎道に立ち往生してしまいます。ようやく来たレッカー車の運転手に丘の上の大きな屋敷の話を聞き、そこ

で嵐をやり過ごすことに。陰気で古びた屋敷には誰も住んでおらず台所の机には、手書きで「彼の名はウォルター」と書かれた本が隠されていました。そこで5人は助けが来るまで順に声を出して本を読むことに。物語が進むにつれ本に書かれたある秘密が明かされていきます。

『ボーダレス・ケアラー』

生きてても、生きてなくてもお世話します』

(山本悦子／著 竹浪音羽／画 理論社

2021.5 913/㊦)



大学生の海斗は夏休み、認知症の祖母の世話をきっかけに「ボーダー」と呼ばれる存在の少女・セーラと出会います。生死の境界に立つ彼女たちは、この世に思い残すことがあるといいます。海斗は

ボーダーになった同級生を見送ったことから、「ケアラー」として心残りを晴らす手伝いを始めました。ボーダーたちが境界にとどまり続ける理由を探るうちに、残してきた想いが少しずつ明らかになっていきます。

『さいごのゆうれい』

(斉藤倫／著 西村ツチカ／画 福音館書店

2021.4 913/㊦)



薬の研究をしているお父さんと二人暮らしのぼくは、小5の夏休み、亡くなったお母さん方のおばあちゃんの家で過ごすことになります。ぼくは、近くにある空港で、大好きな飛行機を見るのを毎日楽しみに過ごしていましたが、お盆の初日、

飛行機に乗ってやって来た、小さなゆうれいの子・ネムと出会います。彼女によると、ゆうれいは今、消滅しかけていると言うのです。

「かなしみ」という感情があるのは知っているけど、どんなものなのかを知らないぼく。かなしみが消えてしまった「大幸福時代」の物語です。

＼YAの本棚から 2／

『#マイネーム』

(黒川裕子／著 さ・え・ら書房 2021.9 [913/㉔](#))



みなさんは自分の名前は好きですか？

美音が入学した中学でいじめ防止のため、必ずお互いに名字に「さん」をつけて呼び合う「サン・サン・うんどう」が始まります。しかし、両親の離婚により中学入学時に、名字が変わってしまった美

音は複雑な気持ちを抱えてしまいます。彼女は他にも様々な事情から、この運動に違和感を覚える生徒たちとSNSでつながるようになり、それぞれが自分の好きな名前の「マイ名札」をつけて登校する「星の王子さま同盟」を結びます。

『マイブラザー』

(草野たき／著 ポプラ社 2021.11 [913/㉕](#))



海斗は小学生の時、大企業の研究者である父を誇りに思い、私立の進学校に進むつもりでした。しかし父は突然会社を辞め、パン屋になると家を出てしまいきます。海斗はそんな父に絶望し、怒りも覚え、塾も中学受験もやめてしまいます。

そして、その言い訳とすべく、わんぱくすぎて手のかかる5歳の弟・総也の面倒を見る、「イクメン」になることを自らに課したのです。

うまく毎日を作り過ごしているつもり海斗でしたが、幼馴染でライバルだった倫太郎達に再会したことで日常が変化します。

『文豪中学生日記』

(小手鞠るい／著 あすなろ書房 2021.10 [913/㉖](#))



文学や書くことが好きで、文芸クラブに所属するハルキ。中学2年の新年の初めから、『土佐日記』の作者の紀貫之のまねをし、女ではなく男(ボク)になって日記を書き始めます。

ハルキは、詩人「かすみ草」として2月から毎月、詩の投稿サイトに、自らの詩を投稿するようになりますが、5月、その投稿によって、SNSでのひどい誹謗中傷にさらされます。

言葉によって傷つき、その言葉と葛藤し、言葉によって希望や未来を見出した、ハルキが綴る、12か月の「文豪中学生日記」です。

『タフィー』

(サラ・クロッサン／作 三辺律子／訳 岩波書店 2021.10 [933/㉗](#))



自分が生まれたのと引き換えるように亡くなった母。そのことから暴力を振るうようになった父。ある時暴力に耐えきれなくなったアリソンは家を出て、父の元から逃れます。身を隠した先は、認知症のおばあさんのマ

ーラの家で、アリソンはタフィーという昔の友達と間違われてしまいます。しかし住む場所のないアリソンはそのままタフィーとして、マールと共に暮らし始めます。

散文詩形式で綴られた物語で、徐々に何が起きたのか明らかになっていきます。

＼YAの本棚から 3／

『境界のポラリス』

(中島空／著 講談社 2021.10 913/㍿)



5歳の時に中国の上海から日本にやって来た、高校生のケイコ。小学生の時に、中国生まれであることを理由に、学校でつらい目にあったことがきっかけで、そのことを知られないように過ごしていました。

知り合いになった中国文学を専攻する、大学院生の幸太郎さんに誘われ、顔を出した自主夜間中学で、日本語も中国語もわかるケイコは、日本語を教えることになります。そこでは、アジアを中心に外国からやって来た人たちが慣れない日本語を勉強していました。

『世界から守ってくれる世界』

(塚本はつ歌／著 産業編集センター 2020.10 913/㍿)



自分の容姿から、周りがみなす「女の子」になることから距離を置く薫子。カミングアウトをして、「オンナノコ」として毎日学校にセーラー服を着てくる、クラスメイトの中鉢。

薫子は、父親によって、無理やり坊主頭にされたり、セーラー服をズタズタに切り裂かれたりして傷ついた中鉢を見かけます。

薫子は、もう誰も住んでいない、亡くなったひいじいちゃんの家を「逃げ場」として連れて行こうと思いつきます。

『スウィートホーム わたしのおうち』

(花里真希／著 片山若子／装画 講談社 2021.6 913/㍿)



家の中が物にあふれ、ぐちゃぐちゃなため、友達すら家に呼べない千紗。自分の思う通りにならないと怒鳴り散らす父や、父に言われるままの母の姿にいらだちを覚え、さらに入学した中学では、自分の発言がきっかけで学校生活

でも浮いてしまいます。そんな中、代理で出席した美化委員会で、ポスターのキャッチフレーズ「美しい場所には美しい心が宿る」が目に残ります。そして、同じクラスの美化委員で、変わった理由で不登校をしている小林から助言を受け、千紗は家を片付けようと決心します。

『エレベーター』

(ジェイソン・レナルズ／著 青木千鶴／訳 早川書房 2019.8 933/㍿)



兄のショーンが銃に撃たれて死んでしまったウィルは、自分たちの掟に従い、犯人に仕返しをしようと、ショーンが隠して持っていた銃を持ち出してエレベーターに乗ります。すると、自宅の8階から地上に降りるまで

の間、死んだはずのショーンの兄貴分のバックや、ウィルの幼馴染のダニ、マーク伯父等が、次々とエレベーターに乗りこんできます。

エドガー賞 YA 部門、ニューベリー賞銀賞等、海外で様々な賞を受賞した作品です。